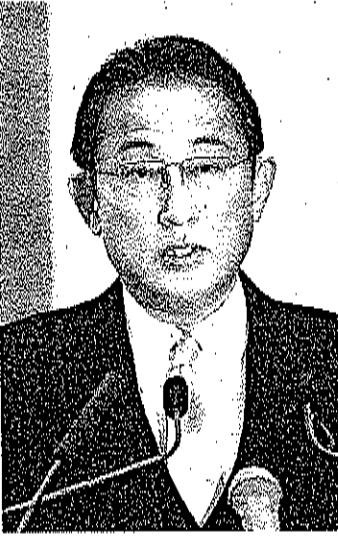


全員入院見直し 表明

岸田文雄首相は4日、三重県伊勢市の伊勢神宮に参拝後、年頭の記者会見を行った。新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」の「市中感染」拡大に備え、オミクロン株の感染者全員を入院させている現在の政府方針について、医療現場が逼迫しないよう見直す考えを示した。

▼4面||会見要旨、12面||
社説

首相はオミクロン株への対応について「市中感染が急速に拡大するという最悪の事態が生じる可能性に備える」と説明。「水際対策の骨格は維持しつつも、国内における予防検査、早期検査も拡大するとした。



伊勢神宮の参拝を終え、年頭の記者会見をする岸田文雄首相=4日午後、代表撮影

て見直す考えを示した。

全世界からの外国人の新規入国停止などの水際強化措置の延長などについて、は、年末年始の状況を分析したうえで来週判断すると説明。政府が一昨年末から

中断している観光支援事業「G.O.T.O. ハラベル」の再開時期については、コロナ対応を優先させるとして明言しなかった。

一方、首相はこれまで、米国のバイデン大統領や豪州の通常国会前の外遊は行わない」と述べ、見送ることも明らかとした。(毎日大志)

中止している観光支援事業「G.O.T.O. ハラベル」の再開時期については、コロナ対応を優先させるとして明言しなかった。

一方、首相はこれまで、米国のバイデン大統領や豪州の通常国会前の外遊は行わない」と述べ、見送ることも明らかとした。(毎日大志)

治療の枠組みを一層強化し、オミクロン対策の重点を国内対策へと移す準備を始める」と述べた。

具体的には、医療従事者や高齢者ら3~100万人が対象のワクチン3回接種の前倒しを進めるなど強調。ままでオミクロン株の感染者は全員入院、濃厚接触者は金属宿泊施設に入るよう求められたうえで、症状に応じ